

令和2年(2020年)8月31日(月曜日)

# 清水庁舎移転凍結を継続

## 静岡市長正式発表 再開不透明に

静岡市の田辺信宏市長は31日の定例記者会見で、新型コロナウイルスの影響で凍結している市役所清水庁舎の移転について「本年度中の再開は困難」と述べ、凍結継続を正式に発表した。昨年の市議会9月定例会で可決された事業費94億3900万円の債務負担行為は廃止する。廃止を盛り込んだ議案などが来月の市議会でも可決されれば、予算上は同事業が白紙になる。2017年の公表時から反対の声が強かった計画の行方は、世界的に猛威を振るう感染症の影響で不透明になった。

再開を前提にした一時停止であることを強調してきたが、同庁舎の年度内の再開は絶望的となった。会見で凍結継続の理由に挙げたのは、今後の行政サービスの大変革。国はコロナ後を見据え、行政分野のデジタル化など次世代型行政サービスの推進を掲げていて、新清水庁舎の計画も大幅

に再開を前提にした一時停止であることを強調してきたが、同庁舎の年度内の再開は絶望的となった。会見で凍結継続の理由に挙げたのは、今後の行政サービスの大変革。国はコロナ後を見据え、行政分野のデジタル化など次世代型行政サービスの推進を掲げていて、新清水庁舎の計画も大幅

求したが、8月の市議会でも否決された。現庁舎が移転後の跡地には独立行政法人地域医療機能推進機構(JCCH)が運営する桜ヶ丘病院が移転する計画があったが、早期の移転を目指すJCCH側が同庁舎駐車場への移転を打診し、現在、市と協議を進めている。残りの2事業のうち、清水港に計画する海洋文化施設の整備は「事業の早期再開を目指す」と述べた上で、現時点では民間事業者の参入のめどが立たないと指摘。事業費16億2200万円の債務負担行為を廃止するとした。同市葵区の旧青葉小跡地に計画する歴史文化施設整備は、新型コロナウイルスの感染防止対策のめどが立たず、事業を再開する。

(政治部・市川雄一)